



コミュニティ・スクールだより

～地域とともにある学校づくりを目指して～

ニセコ町学校運営協議会推進委員会

2016. 1. 28

☆No.3☆

発行者

ニセコ町
教育委員会

導入に向けた検討課題を整理

11月6日に開催した第2回会議では、大分県と福島県への視察研修のまとめを行い、ニセコ町で導入するにあたって検討しておくべき内容を協議しました。

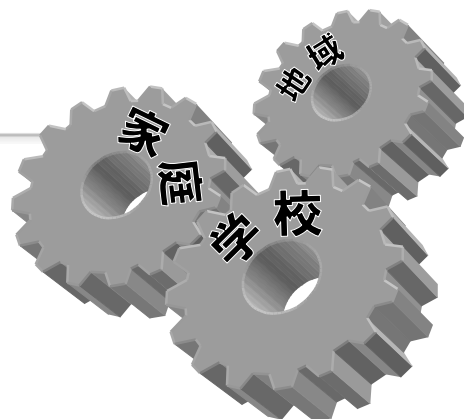


- ◎ 学校運営協議会を学校ごとに設置するか、合同で設置するか検討が必要
(学校ごと設置⇒それぞれの特徴が活かせる 合同設置⇒町全体の状況を把握することができる)
- ◎ 地域の実情も学校の実情も知っているコーディネーター役の人材が必要ではないか
- ◎ どういった子どもに育ててほしいか、地域みんなで話し合う場が必要ではないか

学校と地域をつなぐ歯車にしよう

12月8日に開催した第3回会議のテーマは「ニセコスタイルの学校運営協議会の役割」。ワールド・カフェという話し合いの手法を使い、3グループに分かれて委員全員で活発に意見を出し合いました。

今後、これらの意見を基に、具体的な制度づくりを進めます。



推進委員会委員が考えた学校運営協議会の役割

グループ ①

- ☆学校と地域を歯車で繋ぐように機能させよう
- ☆学校と地域が同じ目的をもって、子どもの成長を支援しよう

グループ ②

- ☆どんな子どもを育てたいのか？という目的意識を学校と地域で共有しよう
- ☆幼児から高校生まで一貫した教育をすすめよう

グループ ③

- ☆ニセコに誇りをもつ子どもを育てよう
- ☆ニセコならではの多様な人材を教育に活用しよう

ニセコ町教育委員会のホームページ内にコミュニティ・スクールに関するコーナーを開設しました。学校運営協議会推進委員会の議事録など、検討状況を紹介しています。

ニセコ町 コミュニティ・スクール

検索

ニセコ町HP <http://www.town.niseko.lg.jp>

C S I K N

コミュニティ・スクール委員の

意見

感想

載せます

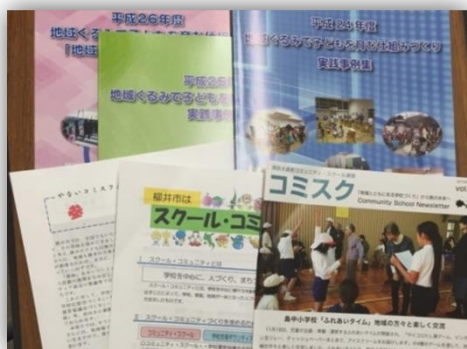
12月に山口県で開催された「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」に参加した新井委員の感想を紹介します。

明治維新と近代教育の接点に触れて

ニセコ町立ニセコ小学校 新井 融

明治時代から続く教育の改革—

山口県は県内の義務教育の学校ほとんどがコミュニティ・スクール事業を行い、平成28年度には100%実施を目指していることを知り、大変興味を持って参加しました。山口県は、幕末から明治維新を牽引した長州藩、吉田松陰の松下村塾の志を継ぐ地でもありますので「日本一の学校」を目指す土地柄、教育に懸ける情熱も素晴らしいものでした。



ニセコスタイルのヒントに！

「やまぐち型地域連携教育」の取組として、山口県教育委員会、萩市教育委員会、周南市立周陽中学校から発表がありました。子どもたちの15年間（幼保小中高）の育ちを地域ぐるみで見守り、支援する仕組みを掲げ、コミュニティ・スクールを核とした「地域の教育力の向上」「地域の活性化」を目指していました。また、県下の各市町村、各学校では、様々なパターンにアレンジしたコミュニティ・スクールが行われているので、今後のニセコ町でのコミュニティ・スクールのあり様に参考できそうです。

地域と学校の繋がりが強い＝

ソーシャルキャピタルが高い—

金子郁容慶應大学教授による基調講演では、「日本で『一番いい』学校」を演題に講演が行われました。この中のキーワード「ソーシャルキャピタル」、この高さが子どもたちの育成に関わると普段感じていたことを数値化・グラフ化して分かり易く説明していただきました。

ソーシャルキャピタルとは…社会や地域における人々の信頼関係や結びつきのこと。これが高いと、相互の信頼や協力が得られやすくなり、治安・経済・教育・健康・幸福感などに良い影響があり、社会の効率性が高まるとされる。（出典：大辞林）

子どもの未来 —

パネルディスカッションでは4名のパネラーがそれぞれの立場から発表していました。

- ・子どもの未来のためと思っていたことが、町の未来につながる。
- ・子どもの活躍は地域の活力。
- ・子どもは、学校だけでなく、体験の総時間で生きる力が育成されるのではないかと。

これらの発表を聞いて、江戸幕府徳川8代将軍徳川吉宗を思い出しました。幕府の財政が貧窮している時に吉宗は川岸に桜の木を植えさせました。幕臣たちは「無駄なことにお金をかける。」と猛反対したそうです。その時の吉宗の返答が、「今はまだ分からないかもしれないが、20年後には誰もいないこの場所に桜の美しさで人が大勢住むようになる」と。この他に「桜の木を植えると人が集まり、川岸の堤防が多くの人に踏まれて頑丈になる。」とも。どちらも現在のことにだけ着眼するのではなく、長期的な視点と全体を見る必要性を謳っています。「子どもたちのため」との思いで始めたコミュニティ・スクールも、月日が経つと地域の人たちと共有の場・時などを通して、気が付くと生涯学習の礎を築いていることにもなりそうです。

今回の研修では、各地域の実状に合わせた多様なコミュニティ・スクールの在り方を参考にでき、有意義なフォーラム参加となりました。



写真：歓迎アトラクション「右田の鼓座」の様子。防府市の中学校保護者が「子どもたちに何かを見せたい！」と集まって和太鼓演奏を披露したのが結成のきっかけ。